

D-project 連画「国際交流セッション」報告

金沢市立扇台小学校 坂上 則子

1．連画紹介

クラスでプロジェクトをつかい、連画の紹介をする。いろいろな地域の学校や外国からも参加すること、連画の説明をした後、もとになる絵“種絵”を紹介した。

《子ども達のようす》

昨年度から子どもの広場のコーナーで名前だけは知っている子、少し絵をのぞいたことがある子などもいて、やってみたい！という声がすぐに挙がった。種絵からイメージした下書きをかいてくることを宿題とした。

2．クラスで1つの絵を決定

種絵からイメージした絵をもとにクラスでの代表作品を決めることになった。黒板に一斉に貼り、多数決にしようとしたところ、どうしても選んで欲しいから自分の作品をアピールしたいという子が何人か現れ、意欲の高さに驚かされた。アピール後の多数決でも選ばれなかった子はとても残念そうにしていた。

《子ども達のようす》

もとの絵からこんなことをイメージしたので、この絵を描きました、とか、この絵に早くたくさんの人がつなげてほしいな、など自分の作品をアピールする子がたくさん出てきて、1つの作品を決めるだけでなく、子ども達の意欲の高さが分かる楽しい時間になった。

3．実際にかいてみる

それぞれの学校から絵が出た時点で、いよいよ自分が参加することになった。画像の選び方、描き方、送り方をあらかじめ説明してから作業開始。次につなげたいような絵はどんな絵だろうかと考えながら、かいている子が多かった。自然にいくつかの操作を覚えることができ、コンピュータの操作に関する技能も付いた。

《子ども達のようす》

画像を取り込むことに抵抗がある子がたくさんいたが、とにかくやってみたいという気持ちでねばり強く取り組んでいた。普段の図工の授業では、なかなかアイデアが出せず、作品に取りかかれない子も、自分なりのイメージを持って絵を完成させていた。やり直しが簡単にできること、自分から他へつながるという意欲がもとになっていたように感じる。

4．かいた後

教室のコンピュータで、自分の絵に誰かの絵がつながっているかどうかを毎日チェックしていた。つながった子はとても喜んでいて。印刷して掲示もしたのだが、輪が広がりすぎて小さくしか表示できなかったため不評だった。しかし自分の絵の場所やどんな風につながっているかはしっかりどの子も記憶していた。またやってみたいという声が多かった。